

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.11/22(月)～R3.11/28(日) 令和3年第47週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	20人	22人	-	-
	② 対人口10万人	1.3人	1.4人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.91	0.56	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		65%	45%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%）＝陽性者数÷検査件数		0.8%	0.7%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。

検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		11/28現在	11/21現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	3人	20人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	0.6%	4.2%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	0人	4人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	0.0%	5.8%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	21人	41人	-	-
	⑨ 対人口10万人	1.4人	2.7人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	11/28現在	11/21現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) =入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	14.3%	48.8%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果^{※5} (懸念される変異株 (Variant of Concern : VOC^{※6}) の検出状況)

※5 川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載

※6 国立感染症研究所が分類した「主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株」

懸念される変異株 : VOC	直近1週間 11/22 ~ 11/28	前週 11/15 ~ 11/21	累計 3/11 ~ 11/28
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	29件	23件	331件
ο株 (オミクロン)	0件	0件	0件

L452R スクリーニング検査終了並びにゲノム解析による監視体制の強化について

令和3年10月25日付け厚生労働省通知に基づき、L452R スクリーニング検査は終了となりました。

全国的にデルタ株に置き換わり、単一変異を探知する変異ウイルス PCR 検査による監視の意義が限定的であることから、今後は様々な変異ウイルスの発生動向を広く監視するため、ゲノム解析を中心とした監視体制へと移行することとなりました。

なお、これまでは国立感染症研究所が中心となってゲノム解析を実施しておりましたが、自治体主体のゲノム体制を強化する必要があることから、令和3年10月からは川崎市健康安全研究所においてもゲノム解析を実施しています。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、いわゆる第5波について、感染の状況は第33週（8月16日～22日）をピークとし、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして、第43週（10月25日～31日）まで減少が続き、第44週、第45週は若干数値が増加した項目がありましたが、第46週、第47週（今週）は再び減少ないし大きい変動がなく、全体として落ち着いている状況が続いています。なお、第47週（今週）は入院中の患者数は3人、重症患者の入院は0となりました。

ステージ分類は第30週（7月26日～8月1日）から第36週（9月6日～9月12日）まで7週間連続して全てがステージⅣとなっていました。順次ステージ解消へとすすみ、第41週、第42週と2週間連続してステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、第44週から再び6項目全てがステージⅣ、Ⅲ解消となり、第45、46週とステージⅣ、Ⅲのない状況が3週間連続しました。第47週（今週）感染経路不明者の割合が前週45%から65%に増加したため、ステージⅣ（50%以上）となりました。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第40週に88人と2桁になり、その後58人→36人→18人と10週続けて減少し今年最も低い数値となりました。第44週28人、第45週39人と若干増加しましたが、第46週22人、第47週（今週）は20人と減少しました。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第39週に9.0人と1桁台となり、その後3.8人→2.3人→1.2人と10週続けて減少し、今年最も低い数値となりました。第44週1.8人、第45週2.5人と若干増加しましたが、第46週は1.4人と減少し、第47週（今週）は1.3人と大きな変動はありませんでした。ステージ分類は第39～47週（今週）と9週間連続してステージⅢ解消となっています。
- ③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進みました。第40週から減少幅が小さくなりましたが、第40週0.64から、0.66→0.62→0.50と減少が続きました。第44週1.56、第45週1.39と2週間連続して1.0を上回りましたが、第46週は0.56と再び1.0を下回っています。第47週（今週）は0.91と増加していますが、1.0を下回っています。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）をピークに減少に転じ、第41週に47%となり、23週間連続でステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）であったステージ分類は、24週ぶりにステージⅢ解消となりました。第42週も44%と減少しましたが、第43週は89%と上昇してステージⅣとなりました。第44週は39%と減少し再びステージⅢ解消となり、第45週36%と減少が続きましたが、第46週は45%と増加、第47週（今週）は65%とさらに増加しています。ステージ分類では、3週間連続してステージⅢ解消が続いていましたが、第47週（今週）はステージⅣ（50%以上）となっています。新規感染者数が非常に少なくなった中での調査のため、今後も変動しやすい数値であると考えています。
- ⑤ 検査陽性率は、第32週に54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、感染の状況の表の※3で説明を加えております。本項目につきましては、算定方法が34週から異なったため連続性が失われますが、新算出方法では第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第41週2.0%、第42週1.3%、第43週は0.5%とさらに減少が続いた後、第44週1.0%、第45週1.1%と、若干数値の増加が見られ、第46週は0.7%と再び減少し、第47週（今週）0.8%と大きな変動はありませんでした。ステージ分類では第38週まではステージⅣであり、旧算定方法を含み12週間連続してステージⅣ相当（10%以上）となっていました。その後は第39～第47週（今週）と9週間連続してステージⅢ（5%以上）解消となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 11.28 現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第 34 週（8 月 23 日～29 日）286 人をピークに減少が進み、第 39 週に 2 桁台 64 人となり、第 41 週 25 人、第 42 週 15 人、第 43 週は 10 人と 9 週間連続で減少しましたが、第 44 週 20 人、第 45 週 28 人と若干増加し、第 46 週は 20 人、第 47 週（今週）は 3 人と 1 桁台になりました。

確保病床数は第 24 週の 241 床から徐々に増床が続き、第 36 週には 455 床、第 44 週に 22 床増加となり、現在計 477 床となっています。したがって、病床使用率は異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）93.9%をピークに減少に進み、第 40 週から 1 桁台の 8.6%となり、その後第 43 週 2.1%と 10 週連続して減少しました。第 44 週は、病床数は増加したものの入院患者数も増加したため病床使用率は 4.2%と増加し、第 45 週は 5.9%と若干増加しましたが、第 46 週は 4.2%、第 47 週（今週）は 0.6%と減少しました。ステージ分類では第 39～47 週（今週）と 9 週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑦ 重症入院患者数は第 34 週（8 月 23 日～29 日）68 人をピークに減少が進み、第 40 週に 1 桁台の 8 人となり、第 41 週 4 人と 7 週連続して減少しました。第 42 週及び第 43 週は 5 人、第 44、45 週、第 46 週は 4 人と、8 週連続して 1 桁台のままとなっていたが、第 47 週（今週）は、重症入院患者数はゼロとなりました。

重症者の確保病床は第 31 週の 30 床から徐々に増床が続き、第 36 週には 66 床、第 44 週に 69 床となりました。したがって重症病床使用率も入院病床使用率と同様に異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）の 146.7%をピークに減少傾向となり、第 36 週に 2 桁台の 72.7%となり、第 41 週には 1 桁台の 6.1%となりました。第 42 週および第 43 週は 7.6%でしたが、第 44 週は増床もあったため 5.8%と減少し、第 45 週、第 46 週も 5.8%のままとなっていたが、第 47 週（今週）は重症患者数ゼロとなったため、重症病床利用率は 0.0%となりました。ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が 7 週連続した後、第 37 週、第 38 週がステージⅢ（20%以上）、そして第 39～47 週（今週）と 9 週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第 33 週（8 月 16 日～22 日）4143 人をピークとして減少が進み、第 38 週に 478 人と 3 桁台、第 41 週に 73 人と 2 桁台となり、第 42 週 41 人、第 43 週 27 人と 9 週連続して減少が続きましたが、第 44 週 30 人、第 45 週 42 人と若干増加、第 46 週 41 人、第 47 週（今週）は 21 人と減少しました。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 33 週（8 月 16 日～22 日）269.0 人をピークに減少が進み、第 37 週 74.3 人と 2 桁台、第 40 週 6.9 人と 1 桁台となり、第 41 週 4.7 人、第 42 週 2.7 人、第 43 週 1.8 人と 10 週連続して減少しましたが、第 44 週 1.9 人、第 45 週・第 46 週 2.7 人とわずかに増加、第 47 週（今週）は 1.4 人と減少しました。ステージ分類としては、第 39～47 週（今週）と 9 週連続してステージⅢ解消となっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が 29 件追加となり、3.11～11.28 のデルタ株累計は 331 件となっています。

なお、南アフリカに端を発したとされている新たな変異株（オミクロン株：o）は、国内においても懸念される変異株（VOC: Variant of Concern）とみなされるようになったため、「変異ウイルス検出状況」に加えまして、11.28 までは 0 件となっています。

10 月 1 日に緊急事態宣言地域から解除されて以降、新規陽性者数、入院数、重症患者数は明確に減少しており、第 47 週（今週）の重症入院患者数はゼロとなりました。市民の皆様のご理解ご協力の賜物です。これまでの不安はだいぶ解消されてきていると思いますが、注意が緩みすぎてしまい安心が油断となって

しまうと再びウイルスが戻ってくる可能性があります。市内からウイルスがすっかり消え去ったというわけではなく、また新たな変異株が外国で検知されているなどのこともあり、基本的な感染対策は続け、リスクの高い行動には気を付けながら、日常生活がさらに回復し、維持ができるよう、引き続きご協力くださいようお願いいたします。

外での飲食やどちらかへお出かけになる機会も増えてくると思いますが、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされると良いと思います。気温も下がってきましたが、換気は感染予防に重要です。「時々空気を入れ替える」ということもお忘れなくお願いいたします。